社会医療法人
同仁会
Dojinkai
Social Medical Corporation

同仁会報みみはら

2022年８月１日発行
第118号

民医連

私たちの理念「一視同仁」

発行　社会医療法人同仁会　同仁会報編集委員会　〒590-0821　堺市堺区大仙西町６丁184-２
TEL 072(244)7260　FAX 072(247)0165　URL https://www.mimihara.or.jp（同仁会HP）

みみはらグループ2022年度

「第22回医療介護安全大会」

院内感染の教訓を忘れず

医療・介護の安全の継続を決意

みみはらグループ２０２２年度「第22回医療介護安全大会」が、フェニーチェ堺小ホールで７月９日14時から、ハイブリッド形式（会場とオンライン）で開催されました。

新型コロナウイルス感染症の影響が完全に終息していないため、やむを得ず、このような形となりましたが、会場71人、オンライン４４２人の計５１３人が参加しました。毎年の「医療介護安全大会」のように一堂に会することはできず、内容も時間も最小限のものとなりましたが、例年より多くの参加がありました。

今回の大会のテーマは、「地域住民参加の医療の選択～ともにつくる意思決定～」で、基調講演は、琉球大学病院地域・国際医療部特命助教で臨床倫理士（倫理コンサルタント）の金城隆展氏をお招きして、「よりよく豊かに生きるためのＡＣＰ～意思決定支援から共同意思決定へ～」という内容で、ＡＣＰ（アドバンスド・ケア・プランニング＝将来の変化に備え、将来の医療、及びケアについて、本人を主体に、そのご家族や近しい人、医療・ケアチームが、繰り返し話し合いを行い、本人による意思決定を支援するプロセス）の視点から、治療やケアについてわかりやすくお話ししていただきました。

講演後のアンケートでは、「人生は選択の積み重ね」、「どう生きるか。何を残して逝くか」などの言葉が印象に残り、「共同者として一緒にその人の最期、その人らしさを考えるなら、まず自分を見つめ直すことが大切！『自分らしさ』って何か考えてみる、『キーパーソン病』にならず、患者様の思いに耳を傾けたい」などの感想が寄せられました。

田端理事長からは、コロナ禍の経過や職員・友の会の奮闘、債務超過解消、民医連の医療・介護活動の二つの柱、医療と介護の複合体である強み、心理的安全性、レジリエンス（＝復元力）を高めることについての開会挨拶がありました。

２年以上続く新型コロナの取り組みを振り返って、耳原総合病院の大矢副病院長から救急搬送や入院病棟のコントロールの難しさを、高砂クリニックの宅田事務長から発熱外来やワクチン接種の取り組みを、健康友の会みみはらの江戸会長からは、活動が制限される中でも、ビニールエプロン作成や電話訪問など、工夫した取り組みについて報告されました。

最後に、土井副理事長からセラチア菌院内感染の教訓を忘れず、医療・介護の安全を継続することを決意しての閉会となりました。

（同仁会本部　柴田康宏）

誰もが親しみを持てるように

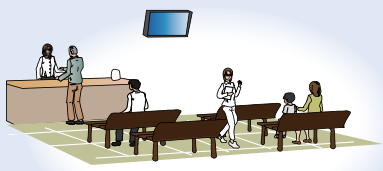
新しい 鳳クリニックに向けて

6月4日、鳳クリニック4階の一室に、友の会会員さんや外部組織の方、職員など、32人が集まり、「鳳クリニックのこれまでとこれから」と題してワークショップを開催しました。古くから関わる方々から、昔のクリニックの様子をお話しいただき、建て替えに向けて、希望など、期待と興奮による熱気で、部屋が熱く感じられるほどでした。

ワークショップは、5～6人のテーブルに分かれ、新しい鳳クリニックに向けた自分たちの想いを書いていきました。「緊張を和らげる空間」「なんでも相談できるような」と出されたキーワードは、誰かの気持ちに触れ、グループメンバーが入れ変わるたびに話題は膨らみ、所属や職種の垣根を越えた2時間のワークショップは、あっという間に終了しました。

（耳原総合病院　アートセクション　衛藤桃子）

・地域に根ざした場所に



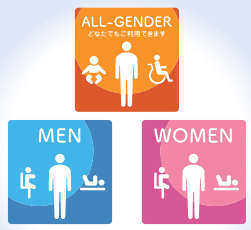
・待合ではゆっくり過ごしたい

・明るく入りやすい空間
・なんでも相談できる
クリニックに

ワークショップで
出てきた主な
“キーワード”

・周辺に緑化庭がほしい
・緊張を和らげる「木」の空間

・美術館
みたいな空間



・ジェンダーレスに配慮
したトイレの検討

などなど…